



2017年（第15回） 三首都交流プログラム

参加者感想文

目次

メンバー	P. 1～14
指導者	P.15～16

『初めての SEBETO で学んだこと、思ったこと』

新宿区立西早稲田中学校 1年

私が SEBETO 交流プログラムで思ったこと、学んだことは、2つあります。

一つ目は、語学が足りなくても外国のメンバーと沢山会話出来ることです。私は韓国語は喋れるけど、中国語はあまり喋れませんので最初は中国のメンバーとは喋ることも近づくこともなかなかできませんでした。英語だと意味はわかってもスムーズに話すことができないので、もしも私の少しのミスで相手が変わりに誤解してしまったらどうしようと思ってしまって戸惑いがずっとありました。今になってですが、言語ができなくても一生懸命チャレンジすれば良かったなあと思います。その結果、プログラムが半ばくらいになって先生方が中国のメンバーとはあまり交流できていないのではないかと指摘された時には、反省するしかありませんでした。でもある時、私が座っていた席の向かい側にいた中国のメンバーの人に勇気を振り絞って英語で話しかけてみました。すると理解したよと言うような笑みを浮かべ言葉を返してくれたのです。その時私はとても嬉しくて気持ちがホッと、もっと話せるのでは？と思いました。それからバスに乗るときは、必ず隣の中国のメンバーにこまめに話しかけ連絡先も教えてもらったり、わからない単語でも身振り手振りで伝えたりしました。時にはスマートフォンの翻訳アプリで話してみたりしたのはユニークな発想でした。語学が足りなくても外国のメンバーと少しでも勇気を出してチャレンジすれば、立派に交流できるんだと覚えました。

二つ目は JRC/RCY の活動が国ごとに全然違うことです。私たちは募金などを主としていますが韓国は雑草取りなど福祉などの活動が多いそうです。

私たちは「何の部活なの？」と聞かれて「JRC 部です」とこたえと、JRC ってなに？と沢山聞かれるのですが、韓国では「RCY です。」と言えば直ぐ伝わるのでとても RCY の存在が一般的に身近であることに驚きました。日本でも青少年赤十字がもっとたくさん広まり、人たちが関心をもってくれることを願いながら、今後の活動に頑張りたいと思いました。

この交流会で体験できたことは、私にとって非常に有益で一生忘れられない事だと思いますので、大きな思い出の宝となりました。感謝しています。来年の TOSEBE にも是非応募して、韓国、中国のメンバーとの再会を期待しつつ日本の良さをアピールしながら新たな挑戦に向けて頑張りたいと思います。

『かけがえのないもの』

墨田区立両国中学校 2年

私は、この三首都交流プログラムで非常に多くのことを体験し学びました。韓国や中国、日本の仲間と共に過ごした5泊6日間は、一生忘れられない私の人生の宝物となる思い出となりました。

今回のプログラムは韓国のソウル市で開催されました。韓国という日本から遠く離れた見知らぬ土地で、文化や言葉の違う環境に戸惑いを感じ、初めはなかなか自分から韓国や中国のプログラムに参加しているメンバーに声をかけることができませんでした。しかし、勇気を出して話しかけてみると、みんなとてもフレンドリーに対応してくれて、今まで感じていた不安がすぐに払拭され、すぐに打ち解けることができました。同じ目的を持った年代の近い学生同士ということもあり、言葉や文化が違っても考え方に共通することも多く、身振りや態度で通じあえる場面が多くありました。

一緒にホテルで泊まった韓国のルームメイトの子は「部屋の温度は大丈夫なの？」と気遣ってくれたり、また市内を移動するバスで向かい側の席に座ったメンバーの子は私にお気に入りのブレスレットをくれたり、とても気さくな態度で接してくれて、まるで日本にいて、日本の友達と過ごしているような感覚を覚え、今まで想像していた一般的な韓国や中国の人のイメージとは違うかな？と感じはじめていました。

日本のニュースや新聞では、日本と中国や韓国との国際的な問題がよく取り上げられ、批判的な意見がテレビで討論されている場面も目にすることがあります。領土に関する問題や、過去の戦争について解決されていない問題など、まだまだ解決できていない問題があります。私は、そのせいで少し偏見を持っていたのかもしれませんが、そう考えると自分が少し情けなく感じてきました。国同士ではたくさん問題を抱えているのは事実ですが、今回のプログラムに参加した「人」に目をきちんと向けてみると、そんな偏見はまったくなく、とても素敵な学生で信頼できる仲間だと思います。やはり、物事は聞いたことをそのまま信じ込むのではなく、自分が実際に見聞きして肌で体験し、確かめることがとても大事なことだと改めて感じさせられました。

たとえ日本にいて同年代の人と過ごしたとしても、いろいろな人がいて多様な考え方を持っていて、その中には極端な考えを持っている人もいると思います。大切なことは、「国」とか「歴史」という背景ではなく、同じ志を持った「人」たちと巡り会うことができるかということだと思います。私は、今回の文化交流で学んだこの「かけがえのないもの」を信念としてこれからも多くの人たちと積極的に交流し、国際理解を図るための活動を続けていきたいと思っています。

『三首都交流プログラムで学んだこと』

荒川区立第三中学校 3年

私は三首都交流プログラムで韓国に行って各国の文化の違いを学びました。

韓国に行って学んだことを書く前に、日本メンバーが始めて会ったときのお話をしたいと思います。

結団式は6月25日でした。初めて、東京都支部に行ったときには知っている人は誰もいなくて緊張しました。隣に座った人は高校生で、後のリーダーでした。リーダーと目が合うとニコッと笑ってくれて緊張が少しほぐれました。結団式では一人ひとり自己紹介をしましたが、考えてきた自己紹介文も忘れてしまい頭が真っ白になりました。そのときは、緊張して何を言ったか忘れてしまいましたが一応自己紹介文を言えてよかったです。結団式当日は、JRC活動と日本文化紹介とクッキングコンテストの係を決めたりしました。私はどの係も、具体的に何をするのがわからなかったのも、余った日本文化紹介にしました。日本文化紹介の係は中学生だけしかいなかったのも、係の仕事を進めるのがスムーズに行くかなと思いました。ですが、日本文化紹介の係は思っていた以上に、紹介するテーマを決めるのに時間がかかりました。日本人メンバーがすべての振り付けを完璧に覚えたのは韓国に行く前々日でした。各国メンバーに見せられるぐらい上手になりました。各国メンバーに、見せるのが楽しみになりました。

次は、韓国に行って学んだことを話したいと思います。韓国に行って学んだことは、最初にも言いましたが各国の文化の違いです。主に違うと思ったことは、食事の違いです。夜ご飯で、トッポギを手作りして食べられるお店に行ったときも各国の食事の違いに気づきました。例えば、韓国人は辛い食事が得意ということに気づきました。中国人と日本人は、韓国人が作ってくれたトッポギを、「辛い！辛い！」と言いました。ですが、韓国人は「全然辛くない！もっと辛いものを食べたことあるよ。」と言いました。このことから、韓国人は小さいころから辛いものを食べているから辛いものに慣れているなと思いました。他にも主に住居が違いました。韓国でバスに乗っていると、似ている住居がたくさんあることに気づきました。日本は似ている住居が連なっていたりはしませんが、韓国は住居が連なっているのが面白いなと思いました。

私は、三首都交流プログラムで韓国に行って今まで知らなかったことをたくさん学べてとても嬉しかったです。最初は、私の学校の副校長先生が勧めてくれたのが初めですが、そのときはこんなにも楽しくなるとは思っていませんでした。

いろいろなことを学んで、韓国や中国、もちろん日本のメンバーの全員と交流できたことを誇りに思いました。

『一生心に残る思い出と大切な友達』

荒川区立南千住第二中学校 2年

私は今回、韓国へ行き沢山の事を学びました。

このプログラムの1番最初の集まりである第1回目の研修会では初めて日本メンバーと顔を合わせました。自分より年上の方が多く少し不安でしたが、先輩達から話しかけてくれてすぐに仲良くなれたので凄く嬉しかったです。それからは目標を決めたり、文化紹介のダンスの練習などをしたり、プログラムを成功させるためにみんなで協力しました。

プログラム当日、初めて飛行機に乗り初めて海外に行く私は楽しみでワクワクしながらも不安で緊張もしていました。

韓国に着き、1日目のウェルカムパーティーでは韓国メンバーと中国メンバーと初めて顔を合わせました。韓国メンバーと中国メンバーも年上が多くて本当に不安でしたが他の国のメンバーからも話しかけてくれて、いつの間にかみんなで写真を撮っていました。すぐに仲良くなれて良かったです。

プログラムの2日目は私の誕生日でした。1日目にも同じく日本メンバーの子で誕生日の子がいました。みんなに祝ってもらい、ケーキも貰えて凄く嬉しかったです。最高の誕生日でした！

4日目の文化紹介ではこのプログラムまでに沢山練習してきたことを全て発揮することができました。成功して良かったです。他の国のメンバーはダンスや楽器の演奏を披露してくれました。どの発表も良かったです。

5日目の観光&ショッピングとフェアウェルパーティーは特に心に残っています。ソウル観光&ショッピングで私のグループはサウナ屋に行きました。私の想像していたサウナとは全く違って、凄く良かったです。

フェアウェルパーティーでは他の国のメンバー1人1人にメッセージを書いて貰ったり、プレゼント交換をしたりしました。もうその時にみんな泣いていて、私も思わず泣いてしまいました。その日の夜はずっと他の国のメンバーと話しました。

そして最後の日、中国メンバーは朝早くに出発だったので、みんなでお見送りをしました。その後私達も日本に帰る時間になりました。空港ではみんなで抱き合いながら泣きました。最後は韓国メンバーが見えなくなるまでずっと手を振っていました。

今回のプログラムは私にとって一生の思い出となりました。韓国語も中国語も分からなくて不安だったけど頑張って英語を使ったりジェスチャーをしたりと言葉が通じなくても気持ちが伝わりあえたと思います。

また、沢山の友達もできました。これからも他の国のメンバーとも連絡をとりあい、また再会したいです。

『三首都交流プログラムに参加して』

足立区立谷中中学校 3年 （副リーダー）

私は今回の SEBTO 交流プログラムに参加して本当に良かったと思っている。

ソウルへ出発するまでは不安もあった。

なぜなら、私は海外に行くのが初めてで、飛行機に乗るのも初めてだったからだ。しかし、会ってたった5回だったのにお互いを信頼しあえる日本メンバーと一緒にだったので心強かった。また、言葉の壁や文化の違いがあるであろう韓国のメンバーや中国のメンバーとは仲良くなれるかどうかという不安もあった。

そして、プログラムが始まり韓国メンバーが温かく迎え入れてくれて、数多かった不安は吹き飛び、期待や楽しさに変わった。

二日目は私が出発前から練習を重ねてきた英語での各国の青少年赤十字活動紹介があった。日本の出番は三国の中で一番最後でとても緊張した。しかし一緒に発表する二人のメンバーが優秀なメンバーで心強く、安心して練習の成果を発揮することができた。各国の発表はとてもそれぞれの個性がでていて面白かった。赤十字活動が盛んな韓国、紅十字活動に誇りを持っている中国、同じ赤十字活動でも活動に対しての思いや活動内容の違いがある事が学べた。

その後のパン作り体験ではさらに韓国の赤十字活動の盛んさを体験を通して改めて感じた。韓国の赤十字ではパンを作り貧困に悩んでいる貧しい子供やお年寄りに配るというような活動をしていた。

三日目には景福宮と言う韓国の歴史的なスポットにチマ・チョゴリという民族衣装を着て観光をした。なかなかできない経験ができとても嬉しかった。

四日目はクッキングコンテストと文化紹介などがあり各国の美味しい料理や文化を楽しみながら学ぶことができた。Kポップダンスや日本語、中国語の歌を歌って盛り上げてくれた韓国。美味しい餃子や手話を使った歌、伝統的な楽器を弾いてくれた中国。各国の個性や文化の違いを知る事が出来た。

五日目の夜に行ったキャンドルセレモニーは私の人生の中でも一生忘れられない経験になった。暗く静かな部屋にメンバーが一人一つずつキャンドルを持って英語でプログラムの感想を言い合い皆と握手をしてお別れの言葉を交わし合った。その時に中国の団長の方が「ろうそくは自身を犠牲にして周りを明るく照らしてくれる、皆さんにはこのろうそくのような素晴らしい大人になって欲しいと思っています、そしてこのプログラムの経験をいかして国際社会で力を発揮してください。」とおっしゃっていた。私はその言葉を大切にしていきたい。そして、皆で感謝のメッセージを腕に書き合い別れを惜しんで大号泣した、、こんなに目が腫れるまで泣いたのは初めてだった。日本に帰る日、韓国のメンバーが見送りに来てくれて、一秒でも長くこのメンバーと一緒にいたいと思った。

このプログラムに参加できて、育ってきた国も違うのにこんなに理解し合えて、最後の最後空港のゲート前で先生達に怒られるまで離れられなかったそれくらい大切に大好きなメンバー30人と先生方と出会えたことが本当に幸せだと思う。

最後に、このプログラムに参加することを応援して協力して下さった先生方と両親。プログラムに向けて私たち日本メンバーに色々な知識や経験の場を与えて下さった職員の方々、ボランティアの方々。同行して下さった先生方。そして、このプログラムをこんなに楽しいものにしてくれた大好きな日本メンバーに感謝を伝えたい。ソウルで過ごした6日間のすべてが私の人生でとても大切な思い出と経験になった。

『SEBETOだからこそできた素敵な経験』

大妻高等学校 2年

今回の第15回 SEBETO 交流プログラムの面接に合格し、韓国へ行くことが決定した時嬉しかったのを思い出します。わくわくしながら韓国へ到着しましたが、純韓国人の子と接するのはこれが初めてで、会ったときは仲良くできるか心配で怖かったです。実は早く帰りたいとも思う程でした。しかし話してみるととてもフレンドリーで男子とも仲良くなれました。これから3カ国と交流して感じたことをまとめたいと思います。

一つ目は言語の大切さです。他国の子が自国の言葉を少しでも理解しようとしてくれるのはとても嬉しかったです。実際に日本語を喋ってくれると親近感が湧いて会話が弾みました。また、韓国の子がひらがなで書いた手紙をくれましたが難しいのに頑張って書いてくれて感動しました。発音など細かいことは気にせず、声に出して伝えてみるのが大切だと思いました。また、共通言語である英語の重要性に改めて気づかされました。英語は3カ国とも学んでいるのでよいツールとなりました。これからも上達するよう勉強します。また、大学に入ったら中国語と韓国語を学びたいです。

二つ目は積極性です。日本は私の気持ち察して欲しいみたい人が多いですが、日本でしか通用しません。思っていることは言わないと伝わりません。受身の姿勢は損をすると感じました。日本以外の国は文化紹介の時、一人で歌ったり踊ったりしていてすごかったです。ちなみに、日本メンバーはソーラン節を主に踊りました。話はずれですが中国の子は学校から家が遠く、寮に暮らしているようで、家族に会いたいと言っていました。その中で出会えたことに感謝します。また、韓国はSNSのグループにも先生が入っていたり、レクでもスマホを使ったりとスマホの普及が進んでいることがよく分かりました。あと、RCYのベストを着て買い物したら人のためにいい活動をしているから安くしてあげると言ってくれました。日本のJRCは私が思うに認知度が低く、JRC活動について考える機会が少なく、日本だったら絶対になくはないことだと思いました。私は日本での赤十字活動をより多くの人に知って欲しいので今後も積極的に活動したいです。RCYのベストにバッチをつけるシステムは良い考えだと思います。バッチは活動したらもらえます。SEBETOは旅行では味わうことができない貴重な体験でした。来年はTOSEBEですが、今回の交流で私の一生忘れられない大切な思い出になりました。また、3カ国のメンバーで同窓会みたいなことをやりたいです。

PS、今回私を選んでくださった赤十字のみなさん、本当に感謝しています。この経験を生かして将来の視野がより広がりました。より国際交流をしたいと思いました。

『3つの宝物』

山脇学園高等学校 2年

私は第15回三首都交流プログラム「SEBETO」に参加して、3つの宝物ができました。1つ目は一生忘れられないたくさんの思い出、2つ目はずっと友達でいたいと思える大切な仲間、そして3つ目は5泊6日のプログラムを通して発見できた新たな自分です。

今回私がSEBETOに応募した理由は、キャビンアテンダントになりたいという幼いころからの夢のために、学生のうちから積極的な国際交流を通して将来に生かせる経験をしたと思ったからです。

しかし、私の今まで生きてきた17年間の中で1番濃くて幸せだったこの6日間で、それ以上のものをたくさん得ることができました。

出発当日、東京代表団で決めた目標である、「みんなで積極的に行動し、国際理解を深め、有意義な研修にする」「積極的なコミュニケーションを通じて、仲を深め、楽しもう」このことを常に頭の片隅に置いて過ごそうと自分の中で再確認し、どんな6日間になるんだろう、韓国人と中国人のメンバーたちと仲良くなれるだろうか、といろんな意味でドキドキした気持ちで日本を発ちました。そして韓国に到着し韓国人メンバーが笑顔で出迎えてくれているのを見たとき、すごく安心しました。その後、歓迎夕食会の時にみんなでたくさん写真を撮ったり話したりして盛り上がりすぐに仲良くなりました。韓国人はシャイな人が多い日本人と違って話す距離感も近くフレンドリーで、また中国人はイメージと違って日本人より控えめだという印象を受けました。でもみんな明るく優しいメンバーたちで、きっと素敵な6日間になると思いました。そこで私は、同じ人間である以上言葉の壁なんてどうにでもなるということを知りました。英語と独学していた韓国語、それだけではなかなか伝わらないので、ジェスチャーやアイコンタクトでコミュニケーションをたくさんとり、伝えようとする気持ちさえあれば伝わらないことなんてない、感情は世界共通なんだと思いました。意思疎通をするのが簡単ではないからこそ、相手の言いたいことを理解し自分の言いたいことを理解してもらえた時の嬉しさがいつも以上でした。

また、私は韓国での1週間で初めての経験をたくさんしました。海外はよく家族で行きますが、親元を離れて旅行としてではなく行くのは初めてだったし、今まで学校でのプログラムで海外の大学生と交流することはありましたが、同世代と友達として関わるのも初めてでした。その中で自分の新しい一面を発見でき、それはこれからの自分にプラスになっていくと思います。他の国にも私たちと同じように赤十字の活動に日々取り組んでいる同世代がいることを知り、不思議な気持ちになりました。私が赤十字について知っていることや普段日本で参加している活動は、赤十字の全体のほんの一部で、私の知らないもっと広い世界でも活動しているということを実感しました。韓国にも中国にも日本にはない活動がたくさんあり、特に韓国はパンを作って地域の方に配ったり壁に絵をかいて街を明るくしたり木を植えたり、日本にはない活動を盛んに行っていて、そういう方法でも人の助けになれるんだと分かりました。このことで私自身すごく刺激を受け、もっと日本での活動に積極的に参加し、SEBETOでの学びを生かしながら、たくさんの人に関心を持

ってもらえるような環境作りから始めたいと思いました。私はSEBETOのメンバーの温かい雰囲気と、居心地の良さが本当に大好きです。今回のSEBETOに東京代表団として参加できたことを心から誇りに思います。この先ずっと私の原動力になり自信になっていくような貴重な経験でした。この出会いに感謝して、この出会いを忘れずに、これからも日本赤十字の活動を引っ張り、続けていきたいです。

『かけがえのない一生の思い出』

東京都立国際高等学校 2年（リーダー）

2017年6月25日。

それは日本メンバーである私達の始まりであった。

私達10人の中高生は、日本赤十字社東京都支部で集まり、開会式が行われた。

昨年度は自分の部活の先輩もこの三首都交流に参加したので、緊張とそれ以上の楽しみがあった。このような中、私達10人は自己紹介をし、お互いの志を伝えた。最後にこれから皆を引っ張っていくリーダーを決めることになった。不安の中、私は手を挙げ、そしてリーダーとなった。

一カ月の事前研修は始まった。学校のボランティア同好会でも部長をつとめているが、やはりリーダーという名がつく役割は楽なものではない。10人いれば十の意見が出る中で、いかに皆が納得し、かつ短時間で出るような目標を立てられるか。それ以降の準備のために備えなければいけないものなど。ダンスの練習、そして日本の赤十字活動を伝えられるように、活動紹介の準備も。料理コンテストのために試作会をやったり、毎回のダンスの練習で汗ダラダラになったり、こうやって1カ月が過ぎるのは、まるで一瞬のようなものであった。

とうとう7月24日、出発日になった。リーダーはいつも皆よりも余裕を保ち、それだけではなく皆の面倒や世話を焼かなければいけない。と最後に母に言われ、心に響いた。そして、皆より1時間早く着いたら一番になるだろうと思ったものの、私達の団長の稲葉先生はなんと1時間半前にはもうついていて、心から尊敬しました。

韓国に辿りつくまでの道のりは長く、日本メンバーの中では初飛行機かつ初海外の子が何人かいて、ワクワクしているところが新鮮で、自分までワクワクの雰囲気伝わってきた。

午後、私達は無事韓国に辿りつき、そして到着ロビーの向こうには韓国メンバーの出迎えがあった。私達は合流し、初めての韓国で緊張していたが、その瞬間、一人の人から手が差し伸べられた。「アンニョンハセヨ」と、丁寧で、親切な挨拶だった。5日間の交流プログラムはこうやって始まり、そして一秒のように過ぎていった。

英語ではそもそも通じない環境であることを気づき、その中でも少し英語が話せる韓国の子がいた。そこで、どれほど英語は便利かを実感した。そして、自分は中国語を話せるものの、自分だけ会話を楽しむのは本当に楽しいのかと思ったと同時に、韓国語は話せないが、なんとかジェスチャーだったり英語の単語だったり、自力で伝えた方がよっぽど楽しいことに気づいた。

そして、韓国メンバーの彼らは、本当に様々な活動をしていると分かった。彼らが青少年赤十字活動を語っていた時、その表情はとても誇りに思っているようで、かっこよくて、心から尊敬した。バッジという小さな印は彼らにとって一番の誇りでもあった。一つ一つにはストーリーがあって、聞いてみたらそれはそれぞれ長くそして面白いものであった。

この5日間は本当に掛け替えのない宝物になった。

最後に、このプログラムで、最も印象に残ったことがあった。

リーダーは簡単ではないといったものの、実際自分は学校でもボランティア同好会の部長をつとめている。学校では、部長は全ての活動内容を把握して、全ての活動内容を調べておかなければ、期限はあっという間にすぎるのだ。そのため、私にとって、リーダーは全てを背負い、全ての責任を取ると自分では定義していた。しかし、この度の三首都プログラムでは、私達は先生方の大きな支えを頂いたのだ。毎回の持ち物のチェック、時間のチェックなど、そしてお菓子の準備まで。部活では自分がやらなければいけないことをフォローしていただき、自分の足りないところがはっきりと分かった。そして、先生方のおかげで、このプログラムはスムーズに進められた。一つのプログラムを成功させるためには、しっかりしている大人が5人も支えてくれなければ成り立たないとしみじみと実感した。私も先生方のようなしっかりしている人になり、学校でもっと赤十字活動を広めようと思う。

『SEBETO での最高の6日間』

巣鴨高等学校 1年

まず、僕が韓国でこの三首都交流プログラムの6日間を過ごして思ったことは、短い時間であっても他国の学生との距離を縮められるという事である。このプログラムが始まった初日はガチガチに緊張していたのに、6日間が終わって金浦空港で別れるときには皆涙を流して抱き合いながら別れるとは夢にも思わなかった。それくらいこの韓国で濃い6日間を過ごすことができたのだと思う。ここで、僕は体験したことを3つのグループに分類してみた。

1つ目は、観光、コミュニケーションを主としたグループである。初日のアイスブレイクから始まる各国生徒との交流、景福宮（キョンボックン）、ロッテワールドタワー、遊覧船での観光、ソウル市内のグループツアーなどである。先程も記したが、初日にソウルに来たときは自分の英語力で韓国、中国の学生たちに伝わるのかなどの余計な心配をしていたためとても緊張していた。しかし、金浦空港についてみると韓国の学生が温かく出迎えてくれて、バスの中やソウル支部についてからも積極的に話しかけてくれたのですぐに仲良くなれたので良かった。また、景福宮で韓国の伝統的な衣装を着ながら観光し、ロッテワールドタワーからのソウル市内の景色、遊覧船から見える夜景などを見ながらメンバーで写真を撮り、お互いの話をしたのは強く印象に残っている。夜は一番広い部屋に集まって、このプログラム中に誕生日を迎えた日本人メンバーを祝ったり、話をしたりしていた。この時間がSEBETOメンバーが仲良くなった要因の一つだと思う。ただ唯一の心残り、中国メンバーとはあまり話せなかったことである。中国メンバーは文化紹介や活動紹介の練習をしていたらしく、ほとんど部屋にはいなかったのだ。もう少し話せる時間が欲しかった。

2つ目は、赤十字の事業に関連するグループである。各国赤十字の活動紹介、パン作り体験などである。各国の発表を聞いて思ったことは韓国や中国に比べて日本は赤十字の活動がかなり少ないということである。日本の赤十字の認知度がかなり低いのだろう。日本でももっと赤十字の活動が知られるようになってほしい。また、パン作りではソウル市内に住む高齢者たちに配るためのパンを作った。赤十字の関連施設にパンを作れる施設があるのはすごいと思った。こういうところは日本も真似をするべきだと思う。

3つ目は、各国の文化についてのグループである。ここにはクッキングコンテストや文化紹介がある。クッキングコンテストでは日本は肉じゃが、味噌汁、わらびもちを作った。ここは女子たちが頑張ってくれていい日本食ができたと思う。韓国はキムチを使った料理、中国は餃子など日本で親しまれている料理ばかりでとても美味しかった。文化紹介も韓国、中国共に知っていたり、見たことがある歌や踊りがあったりして、日中韓の三ヶ国は互いに浸透しあっているのだという事を感じた。また日本の発表の最初が僕のPPAPでとても緊張したが、皆が一緒に歌ってくれたので本当にうれしかった。

最終日は、フェアウェルパーティーやキャンドルセレモニーを行った。みんなが紙や腕にメッセージを書いてくれてそれを全て見終わるころには涙が出てしまっていた。韓国での最後の夕食は、みんなで会話をしたりプレゼント交換をしたりしながら過ごした。キャ

ンドルセレモニーではキャンドルを中心に置いた後、一言ずつ述べながら握手をしていった。韓国と中国のメンバーには笑顔で握手できたが、日本メンバーとの握手のときには事前研修で頑張ってきたことなど全てがフラッシュバックしてきて、泣いてしまった。事前研修で頑張ってきたことがすべて成功して本当に良かったと思っている。

最後に、この SEBETO の面接で僕を選んでくださった職員の皆様本当にありがとうございました！では、この一言で締めます。

SEBETO に出会えてよかった！！

『伝えることの大切さ』

桜丘高等学校 2年

私はこの三首都交流プログラムに参加できて本当によかったと思います。素敵なメンバーに恵まれ、この六日間でたくさんの友人ができました。日本に帰ってきてから二週間以上経った今でも昨日のここのように思えますし、韓国で過ごした時間が本当に恋しいです。私が特に印象に残っている思い出は二つあります。

一つ目は私の誕生日パーティーです。出国日の7月24日はちょうど私の17歳の誕生日でした。ウェルカムパーティーの最中に突然電気が消えて、韓国メンバーの子がバースデーソングを歌いながらケーキを持ってきてくれて、思わず泣いてしまいました。誕生日にたくさんの人から祝福されて、しかもサプライズだなんて初めてだったので嬉しすぎて涙が止まりませんでした。それをきっかけにみんなが私の名前を覚えてくれて仲良くなれたので本当に嬉しかったです。その後ホテルでみんなと一緒にケーキを美味しくいただきました！みんなと一緒に食べたからこそ何十倍も美味しく感じて、本当に幸せな誕生日を過ごすことができました！！この日は一生忘れません。

二つ目は5日目のキャンドルセレモニーです。一人一人の感想を聞くと涙が止まらなくて、自分が話す番になったときにはもう泣きすぎて声が震えてしまいました。その後、一人一人と抱き合ったとき「こんなに仲良くできるのも、一緒に過ごせるのも明日で本当に最後なんだな」と思うと悲しくて悲しくて、ひたすら号泣していました。今思い返すとすごく恥ずかしいのですが、六日間の中で一番印象に残った日でした。

私は韓国に行くまでは言葉も文化も違う韓国人、中国人と本当に仲良くなれるのだろうかかと不安に思っていました。しかし、大切なことは「相手に伝えたい気持ち」なのだとわかりました。言葉が通じなくても、めげずに工夫をして「あなたと話したい、仲良くなりたい」という気持ちを表すことが、コミュニケーションをとる上で一番重要なのだと思いました。私は韓国語や中国語を全く話せなかったので、コミュニケーションをとるのに苦労しました。しかし、ジャスチャーで一生懸命伝えようとしてくれたり、韓国語中国語を話せる日本メンバーの子を呼んで翻訳を頼んでくれたり、私とたくさん話したいからといってわざわざ日本語を覚えて話しかけてくれたりとみんなの優しさに本当に感動しました。きっと、一人一人の「たくさんの人と仲良くなりたい」という気持ちが強かったからこそ、六日間だけでこんなにも仲良くなれたんだと思います。

SEBETOのおかげで、私は人として大きく成長することができました。もっとたくさんの人にもこんなに素晴らしいプログラムがあるということを知ってもらいたいです。

私はこの六日間を決して忘れません。SEBETO大好きです！

『SEBETO プログラムを終えて』

荒川区立諏訪台中学校 校長 （東京代表団団長）

この度、第15回ソウル・北京・東京青少年赤十字交流プログラムに、団長として参加する機会をいただきました。とはいえ、私はこれまで、JRC 活動に指導者の立場で参加するのは今回がはじめてでしたので、不安もありましたが、少しでもお役に立てることがあればとの思いでお引き受けさせていただきました。

6月25日、結団式で参加メンバー10名が初めて顔を合わせました。どの生徒も意欲にあふれた、個性的なメンバーでした。そこで最初にやったことは団の目標づくりでした。

全体目標「皆で積極的に行動し、国際理解を深め、有意義なプログラムにする」

行動目標「積極的なコミュニケーションを通じて、仲を深め、楽しもう」

その様子を見て、このメンバーならやってくれると感じました。実際、そこからの彼らは、事前研修を重ねるごとに互いを知り、関係を深め、そして六日間のプログラム期間中は、その力で、準備してきたことをそれ以上の形で発揮してくれたのでした。さらに、その前向きさと団結力で、このプログラムの目的である「国際理解・親善」にふさわしい活動・交流を行い、“チーム”として大きな成果をあげてくれました。

今回、参加させていただいて感じたことがあります。それは、参加したメンバーたちにとって、得難い経験になったであろうということです。国籍や言語が違ったとしても、大切なのは「人と人が（直接）関わること」だということ、中学・高校生が日常のなかで感じることはまずないといっているでしょう。このプログラムはそうしたことを、頭ではなくて身体感覚で感じ取ることのできる貴重な機会ではないでしょうか。今回、このプログラムでのメンバーの活動を間近で見ていると、こうした体験をもった人たちの存在が「世界の平和と人類の福祉に貢献する」思いを広げていくのだと信じずにはられません。参加したメンバーたちがこのプログラムでの経験を活かし、成長していってくれることを楽しみにしています。

最後に、日本赤十字社東京都支部担当職員の方々をはじめ、通訳、ボランティアなど、本事業の運営にご尽力された関係者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

『交流とは？（してきたつもり？もっとしたかった？）』

大妻中学高等学校 教諭

今年で15回目の三首都交流プログラム、勤務校の生徒たちには第1回から案内し、参加希望者がいれば推薦書を書き、引率していただく先生方に感謝するのみだったこれまで。今年もそのつもりでした。そんな私に「引率していただけませんか？」と連絡があったのは参加者決定後。「参加者のほとんどが女子になったので」がその大きな理由だったようです。ちょうど勤務校で英国に引率予定のプログラムが中止になったこともあり、この期間の予定がなくなった直後だったものの、参加必須となっている事前研修にはほとんど行けないのにはいいのか？こんな裏話もありながらの決定でした。

団長が稲葉先生であったことの安心感、鈴木さんや若狭さんが女性であることの安心感、行ってみれば生徒たちも全員元気で、私が最もグロッキーだった実態。

それでも、せっかくの機会、私は無駄にしなかったつもりです。特に関心を持っている海外の教育事情について、韓国、中国の先生方だけでなく、その教育を受けている生徒たちとも積極的に交流し、情報を得ました。いや、正直に言うと得たかったけれど言葉の壁が厚く思ったようにできませんでした。

その点、中高生の皆さんはすごい。確か現地で2日目の夜、日本語が聞こえてきたのにそこにいたのは韓国の学生、翌朝日本の学生を見かけたら話している言葉は韓国語と英語。やはりきちんとコミュニケーションを取るためには語学が大切だと思った1シーンでした。

赤十字ならではのプログラムもたくさんあり、国籍が違ってこんな教育を全世界で受けられれば戦争は起こりえないとも思いました。

一緒に行った生徒たち、初日は「こんなことしていいのかな？」の不安も見えていたのに、次第にこちらで気をつけて見ていないと何か事故につながるのではないかとヒヤヒヤしながらも、日本国内とは違う大らかな気持ちで眺めていることができました。帰りの金浦空港で出国手続きをした後はいろいろ思うところがたくさん。その時に「日本に帰りたくない。人の目を気にして自分を出さずに過ごさなければならないのはいやだ。」と言った生徒の言葉が印象に残っています。

教員であったから、その中でも青少年赤十字教育に携わってきたから参加させていただけたプログラムでしたが、お世話になった参加生徒も含むすべての方々に、貴重な体験ができたことへの感謝の気持ちでいっぱいです。

またいつかお会いしましょう。

I will see you again someday.

또 언젠가 만날시다

看你的一天